



「知事を用むふれあい広場」開催

東村知事広聴会と国頭・大宜味村視察

十月七日、やんばるの自然を活用した「交流型農村」を目指して村づくりを進めている東村で、直接住民から意見や要望を聞く知事広聴会と村内各地の視察、八日には国頭村、大宜味村で行政及び産業関連施設の視察を行いました。

●東村視察「自然の雄大さに感動」

東村は、つつじ園を中心とする緑豊かなやんばるの森とその自然の中で育まれる農産物が大きな魅力となっています。また、農業を通して地域興しをすべく農家有志による交流型農業の取り組みも盛んです。

今回は、グリーンツーリズムの拠点である「つつじエコパーク」の他、イノシシを観光資源として活用するとともに、害虫や雑草の除去にも利用したタンカンの無農薬栽培を行う「イノシシ牧場」と、実際に収穫したゴーヤーやイチゴなどを使って料理体験を行う「サンフーズ港川ファーム」を視察しました。



上手に皮をむいてタンカンを食べるイノシシ



低床栽培の説明を受ける知事（サンフーズ港川ファーム）



（イノシシ牧場）



福地ダムの説明を受ける知事（福地ダム）



エイサーと花束で歓迎（有銘小中学校）



和やかな雰囲気での給食会（有銘小中学校）

●子ども達との交流「有銘小中学校」
有銘小中学校は、全校児童・生徒四十一名の小さな学校ですが、スポーツが盛んです。バスケットボールでは小中学校とも北部地区の大会で優秀な成績を修めているほか、棒高跳びの九州大会でも連続入賞する好成績を残しています。

学校訪問では、中学生による地域の伝統芸能の有銘エイサーで歓迎を受けた後、知事は、小学校三・四年生のクラスで給食をともしました。子ども達に囲まれ、質問攻めにあつた知事でしたが、終始笑顔で楽しい一時を過ごしました。

知事は、平良集落前海岸の高潮対策について「人工リーフ等の設置による対策が必要と考えており、新たに高潮対策事業として国に要望していきたい」と前向きに取り組む考えを示しました。

●地域の声を直接聞く

東村での知事視察広聴は、平成元年以来十五年ぶりということで村民の皆さんと同様、知事も大変心待ちにしていました。限られた時間のなかで、北部三村を視察する過密な日程でしたが、地域の生活や実情を直接見聞する良い機会となりました。今後とも開かれた県政を推進するため、県内各地で知事視察広聴を開催していきます。

●知事視察広聴
「知事を用むふれあい広場」
広聴会は、東村農民研修センターで、宮城村長ら村幹部をはじめ村民約五百十名が参加して行われました。知事は、冒頭のあいさつで、村と村民が連携した地域活性化の取り組みに対する情熱と努力に敬意を表するとともに、同日発表された、十六年度過疎地域自立活性化優良事例の総務大臣賞受賞の話題にふれ、受賞を契機とした東村の新たな発展への期待感を示しました。



要請書を手渡す宮城村長

国頭村では、優良種畜（種豚）の生産・育成配布を行う県家畜改良センターを視察した他、やんばるの豊かな森林を活用し、種苗の採取・植林・伐採からフローリング材をはじめ集成材・木工製品の加工まで幅広く手がけている「国頭村森林組合」を訪問しました。知事は、県産材を使った木工製品の一つ一つを手にとって確認したり、加工方法の説明に聞き入っていました。

大宜味村では、長寿のイメージを大切にし体に良いものを作りたいと無農薬栽培を行う「山城しいたけ園」を視察しました。園で振る舞われた生しいたけ天ぷらの美味しさに、一同「しいたけ」に対する認識を新たにしました。

また、知的障害者授産施設「えすの里」では、入所者が栽培した熱帯果樹や観葉植物、流木の加工品などを見学した他、隣接する特別養護老人ホーム「やんばるの家」を訪れました。



無農薬栽培しいたけの収穫体験（山城しいたけ園）



県産材を使った小木工品（国頭村森林組合）



授産施設での作業風景を視察（えすの里）



明るい入所者の皆さんにあいさつ（やんばるの家）



県家畜改良センター（国頭村）

●お問い合わせ
県広報課 TEL.098-866-2020
FAX.098-866-2467



「ちゅらさん運動」で築く安全・安心な沖縄県

